

○ 凡そ 新聞紙

新聞紙は社會の本錢だと自稱する。そして、嫌やに正義振つた事を書いてゐる。

砂利喰ひがどうだの、某會社が職工を虐待するのはよろしくない等とも云ふ。だが、

事、自分達に關したと云ふと、殊に吾々貧窮奴隷が彼等に要求し反抗した事件にな

る彼等はお互ひに隠し合つて一切報道しないんだ。

見ろ！ 要するに彼等も現社會の吸血鬼たる資本家だ。その貧乏な卑劣な資本家の

特有性は有り餘る程持つてゐるんだ。

俺達は今の正義公正の面を被れる一吸血鬼たる萬朝報と小報を開いた、さうして

惨敗した。しかし俺達も職の惨敗の一つは、俺達も指す場所に来る段階

の一つだ。即ち俺達も今回の惨敗は、更に目的地に到る小さな段階を更に一段

上つた譯だ。

しかしらば俺達もは、如何に惨敗したか。敵はどんな手段を取つたか。

最初俺達も、整理部が、夜勤十二時以後の居残り料を一時間に對し、普通賃銀の倍額を

要求したのは、去る十一月四日だつた。が、社は何等の回答もしない。そして俺達も

が數日に亘つて追來した結果、終に十一月廿日に回答する旨を、廿九日になつて工場

に貼出した。俺達もは正直に待つたけれども、廿日の夕方に成つてもヤハリ返答が

ない。其時既に俺達もは罷業しようとしたんだが、社長代理種株某の言を容れて、更

に一日午後三時迄待つたが、結局それも無駄だつた。俺達もは當然と職を告げた。

即ち全部正運賃員なる七十名の整理部員はケースを眺めて腕組をなし回答を待つてく

工場内に一夜を明した。二日の朝刊は美事に出来なかつた。

二日の午後になつた。俄かに騒音が俺達もを取りまいたと思ふと、正服私服きて

約三百に近いき警が襲つて來た。柔道三段と稱する男も同勢を引連れて來た様だつた

として一人に三四名の襲撃がついて俺達もは社外に出されてしまつた。

かくて二日の朝夕刊は出来なかつたが、三四五の三日間は他の印刷所が加勢してあ

不散な新聞を發行した。かくて俺達もは職ひに惨敗した。

俺達は今更多くを云ふまい。たゞ、神戸の造船所争議や石川島造船所罷工に對し、

警官の出勤を極力非難した萬朝報が、俺達に對しては如何に無謀な警官の應援を乞ふ

たかを告げればいゝんだ。平素如何に正義公正を口にしても、資本家精神の根本がど

んなものであるかを告げればいゝんだ。十二月四日の朝刊に掲げた「本社整理部の助

捕頭」を題する偽文の如きは、たゞ俺達の一唾を吐きかけるを以て足りる。

今回敵意された十八名が、警視廳で、北紺屋署と、築地署と、萬朝報社との義理に

よつて選り出された、正運賃の團士ばかりである事は、資本家階級の職團組織を明白

に示してゐるぢやないか。

諸君よ！ かくる暴虐の萬朝報によつて知られた理想團の言論に、諸君は何の敵意

があると思ふんだ。何の理想があると思ふんだ。奴等はいふ理想とは、要するに現代

資本家の整理部面に、正義と平和の面を被せて置かうといふのだ。

叫び所請知識階級と稱する蛆虫共よ、そのクマコ共よ。お前達の尻の下には、い

ま正に猛火が燃えこんでゐるんだぞ！！

新聞紙は社會の本錢だと自稱する。そして、嫌やに正義振つた事を書いてゐる。

砂利喰ひがどうだの、某會社が職工を虐待するのはよろしくない等とも云ふ。だが、

事、自分達に關したと云ふと、殊に吾々貧窮奴隷が彼等に要求し反抗した事件にな

る彼等はお互ひに隠し合つて一切報道しないんだ。

見ろ！ 要するに彼等も現社會の吸血鬼たる資本家だ。その貧乏な卑劣な資本家の

特有性は有り餘る程持つてゐるんだ。

俺達は今の正義公正の面を被れる一吸血鬼たる萬朝報と小報を開いた、さうして

惨敗した。しかし俺達も職の惨敗の一つは、俺達も指す場所に来る段階

の一つだ。即ち俺達も今回の惨敗は、更に目的地に到る小さな段階を更に一段

上つた譯だ。

しかしらば俺達もは、如何に惨敗したか。敵はどんな手段を取つたか。

最初俺達も、整理部が、夜勤十二時以後の居残り料を一時間に對し、普通賃銀の倍額を

要求したのは、去る十一月四日だつた。が、社は何等の回答もしない。そして俺達も

が數日に亘つて追來した結果、終に十一月廿日に回答する旨を、廿九日になつて工場

に貼出した。俺達もは正直に待つたけれども、廿日の夕方に成つてもヤハリ返答が

ない。其時既に俺達もは罷業しようとしたんだが、社長代理種株某の言を容れて、更

に一日午後三時迄待つたが、結局それも無駄だつた。俺達もは當然と職を告げた。

即ち全部正運賃員なる七十名の整理部員はケースを眺めて腕組をなし回答を待つてく

工場内に一夜を明した。二日の朝刊は美事に出来なかつた。

二日の午後になつた。俄かに騒音が俺達もを取りまいたと思ふと、正服私服きて

約三百に近いき警が襲つて來た。柔道三段と稱する男も同勢を引連れて來た様だつた

として一人に三四名の襲撃がついて俺達もは社外に出されてしまつた。

かくて二日の朝夕刊は出来なかつたが、三四五の三日間は他の印刷所が加勢してあ

不散な新聞を發行した。かくて俺達もは職ひに惨敗した。

俺達は今更多くを云ふまい。たゞ、神戸の造船所争議や石川島造船所罷工に對し、

警官の出勤を極力非難した萬朝報が、俺達に對しては如何に無謀な警官の應援を乞ふ

たかを告げればいゝんだ。平素如何に正義公正を口にしても、資本家精神の根本がど

んなものであるかを告げればいゝんだ。十二月四日の朝刊に掲げた「本社整理部の助

捕頭」を題する偽文の如きは、たゞ俺達の一唾を吐きかけるを以て足りる。

今回敵意された十八名が、警視廳で、北紺屋署と、築地署と、萬朝報社との義理に

よつて選り出された、正運賃の團士ばかりである事は、資本家階級の職團組織を明白

に示してゐるぢやないか。

諸君よ！ かくる暴虐の萬朝報によつて知られた理想團の言論に、諸君は何の敵意

があると思ふんだ。何の理想があると思ふんだ。奴等はいふ理想とは、要するに現代

資本家の整理部面に、正義と平和の面を被せて置かうといふのだ。

叫び所請知識階級と稱する蛆虫共よ、そのクマコ共よ。お前達の尻の下には、い

ま正に猛火が燃えこんでゐるんだぞ！！